

## 【地域連携専門部会報告】 外来魚対策の取り組み

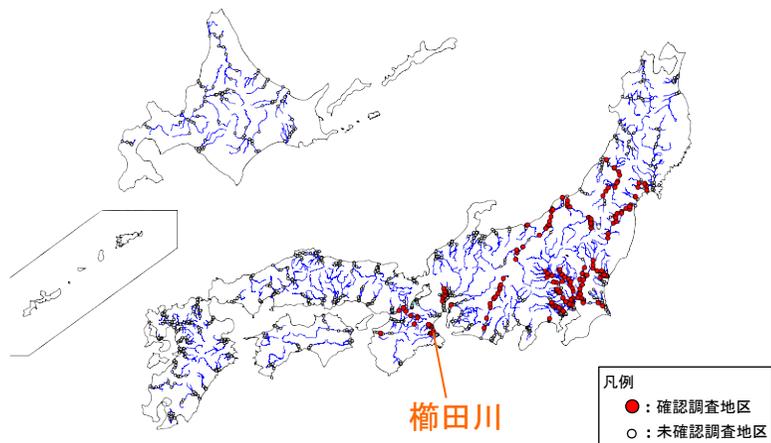
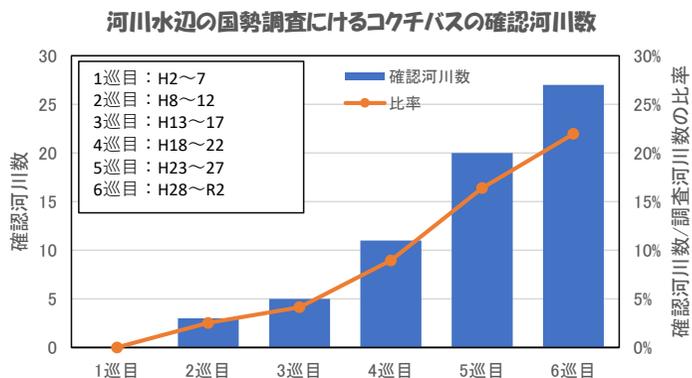
- |                         |   |
|-------------------------|---|
| 1. コクチバスとは？             | 1 |
| 2. 第8回外来魚対策コア会議の開催概要    | 2 |
| 3. R6コクチバスに関する現地調査概要    | 3 |
| 4. 外来魚（コクチバス）対策に向けた取り組み | 8 |

令和7年3月  
地域連携専門部会  
事務局

# 1. コクチバスとは？

- コクチバスは、もともとは北アメリカに生息するスズキ目サンフィッシュ科の魚で、湖沼や河川の中下流域に生息する。低水温に対する耐性が強く、流水域にも適応できる。
- 国内には釣りの対象として導入され、1990年頃から定着が確認されている。国土交通省で実施している「河川水辺の国勢調査」においても確認されている河川数が年々増加している。
- 魚類やエビ類、ヤゴなどを食べる強い動物食性であり、昔から日本に生息していた在来種に対する影響が懸念されることから、外来生物法において「特定外来生物」に指定されており、生体の飼育、運搬等は禁止されている。
- 櫛田川ではH27に初めて確認されて以降増加傾向にあることから、H29に「地域連携専門部会 外来魚対策コア会議」を立ち上げ、情報共有等を図っている。

## ●国内での確認状況



河川水辺の国勢調査におけるコクチバス確認箇所  
(6巡目調査：H28~R2)

## ●櫛田川での確認状況



櫛田川におけるコクチバス確認状況  
(夏季1回7地点での調査結果の確認数の合計)



孵化直後のコクチバス稚魚  
(立梅用水堰下流：R6.5撮影)



コクチバスの産卵床  
(櫛田可動堰下流：R6.5撮影)

## 2. 第8回外来魚対策コア会議の開催概要

### ■自然再生推進会議 地域連携専門部会 第8回外来魚対策コア会議

(1)日時：令和7年1月10日(木) 14:00～15:30

(2)場所：松阪公民館 講座室2

(3)議題

#### ①現地調査結果の報告

- ・事務局より、今年度のコクチバスの産卵確認状況や夏季活動期のコクチバス個体数の変動等の調査結果について説明を行った。

- コクチバス産卵状況調査結果（R6.5月実施）

- コクチバス生息分布調査結果（R6.8実施）

- 胃内容物調査（捕獲した個体の胃内容物を確認）

#### ②外来魚対策の取り組みについて

- ・岐阜県でのコクチバス駆除に向けた取り組みの進捗状況について紹介した。
- ・再リリース禁止に向けた要望書に対して、三重県内水面漁場委員会での対応状況について、三重県より説明があった。
- ・今後の進め方について、要望書を提出したことをもって、外来魚対策コア会議は閉会とすることを説明した。



コア会議の開催状況

# 3. R6コクチバスに関する現地調査概要

外来魚対策のための基礎資料とするため、令和6年度も以下の調査を実施した。

- ①繁殖期のコクチバスの産卵環境調査
  - ②活動期（夏季）のコクチバスの生息分布調査
  - ③採捕されたコクチバスの胃内容物調査
- ※松阪東大橋上流について、第9回推進会議意見等を踏まえて夏季の生息分布調査において新規地点として追加した。

表-3-1 コクチバスに関する調査内容

調査名	調査内容	調査時期	調査地区
産卵環境調査	産卵場になる得る場所において産卵状況の確認調査（目視確認及び採捕調査）	5/21~24 (1回目) 5/31~6/1 (2回目)	産卵床の可能性のある箇所を調査（直轄区間内） 立梅用水堰下流
生息分布調査	活動期におけるコクチバス生息分布調査（採捕調査）	8/6~9	松阪東大橋上流（R6追加地点） 新屋敷取水堰下流 榑田第二頭首工下流 榑田第一頭首工下流 榑田可動堰下流 新両郡橋付近、庄付近、ドタ付近
		8/9	立梅用水堰下流（目視）
胃内容物調査	採捕されたコクチバスの胃内容物を確認	適宜	各調査箇所

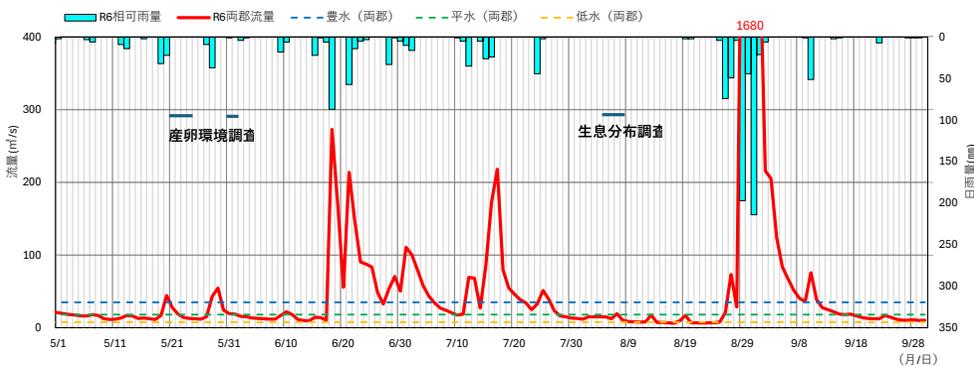


図-3-1 河川流量と調査時期の関係

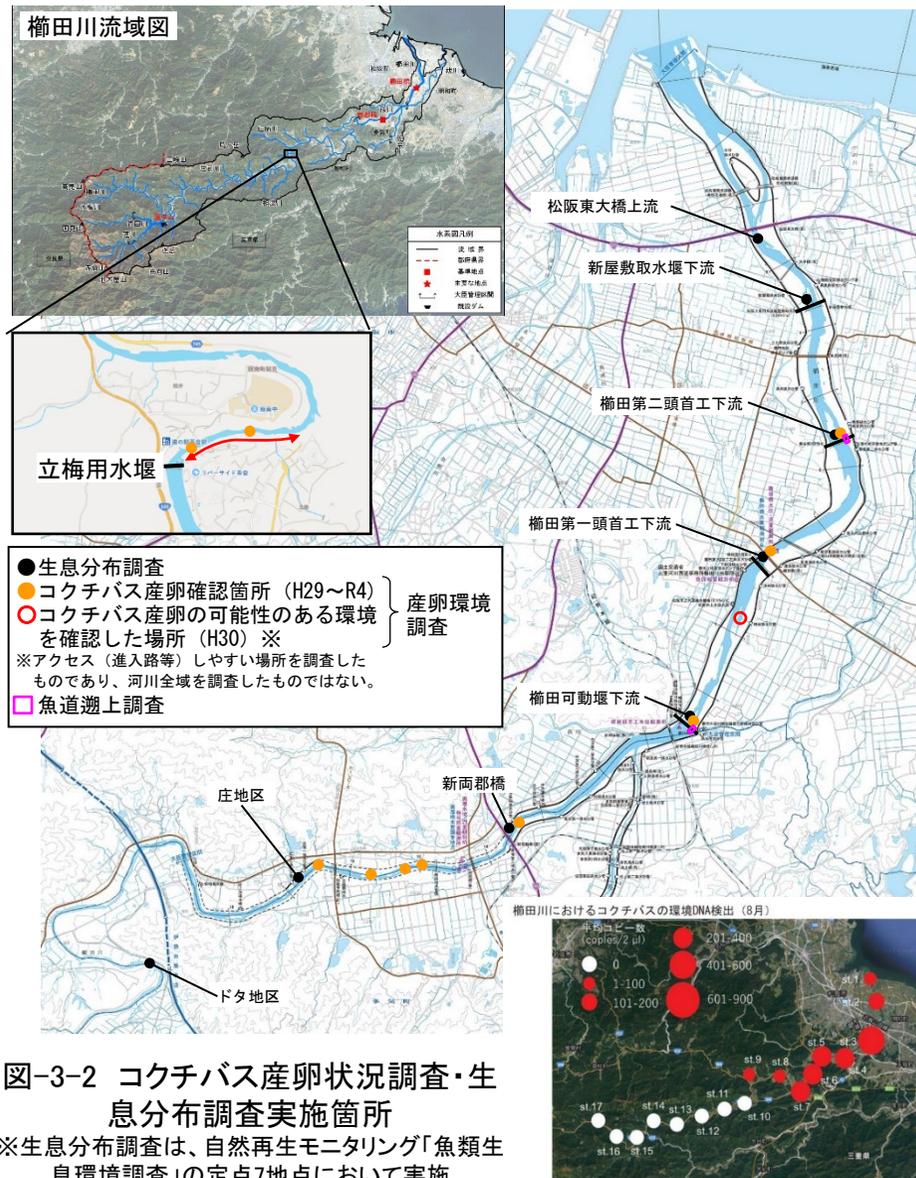


図-3-2 コクチバス産卵状況調査・生息分布調査実施箇所  
※生息分布調査は、「自然再生モニタリング「魚類生息環境調査」の定点7地点において実施

▶ 冬季と同様に最上流の検出地点は立梅堰下流地点(st.9)  
▶ 冬季より分布が拡大(st.1)し、eDNA密度の偏りが小さかった

# 3. R6コクチバスに関する現地調査概要

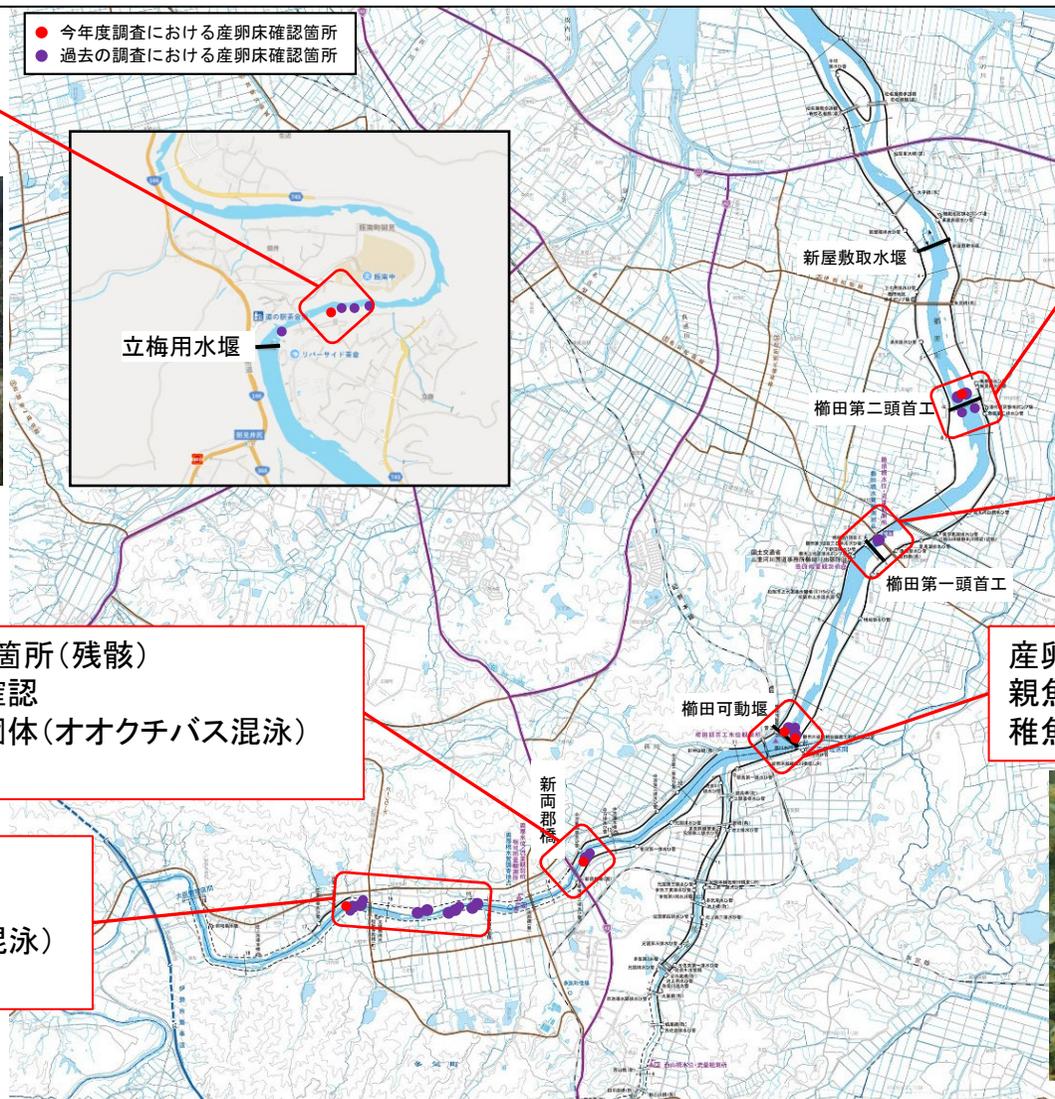
## 1) 産卵環境調査

- ・R6調査では、コクチバス産卵床は11箇所を確認され、23個体の親魚、約8,600個体の稚子魚、約3,500粒の産着卵を採捕・回収した。
- ・櫛田川可動堰下流および立梅用水堰下流において、ふ化直後の産卵床（稚魚が多数残存）を確認しており、調査実施時が繁殖の最盛期～終わりかけであったと推測された。

産卵床: 1箇所  
親魚: 1個体  
稚魚: 約5,000個体 を処分



● 今年度調査における産卵床確認箇所  
● 過去の調査における産卵床確認箇所



産卵床: 1箇所(残骸)  
親魚: 1個体(42cm)を処分

産卵床: 未確認  
親魚: 2個体(18cm、22cm)  
稚魚: 25個体  
を処分

産卵床: 1箇所(残骸)  
親魚: 未確認  
稚魚: 58個体(オオクチバス混泳)  
を処分

産卵床: 6箇所(産着卵: 3,500粒)  
親魚: 18個体  
稚魚: 約3,300個体  
を処分

産卵床: 2箇所(残骸、形成途中)  
親魚: 1個体  
稚魚: 約250個体(オオクチバス混泳)  
を処分



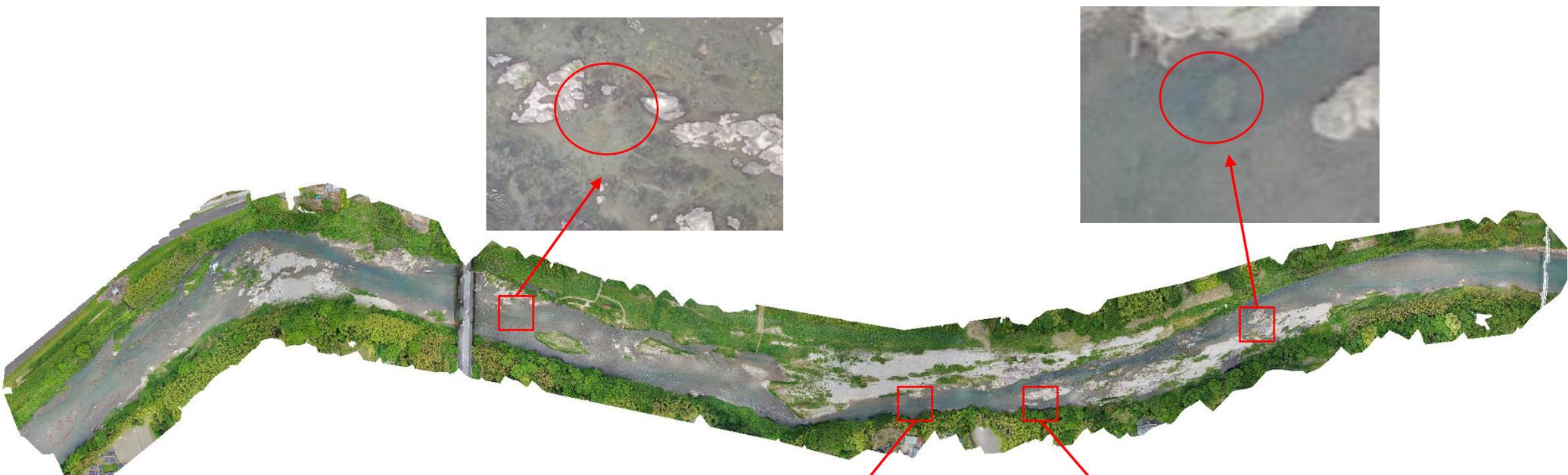
図-3-3 コクチバス産卵床の確認箇所

### 3. R6コクチバスに関する現地調査概要

#### 2) ドローンを用いた産卵床の確認

- ・コクチバスの産卵床環境調査前に、15.0k付近の人による踏査が困難な箇所を含む全域でUAVを用いたオルソ画像の取得を実施した。
- ・オルソ画像の取得後、色調の違いから産卵床の可能性が考えられる箇所を屋内にて抽出し、現地調査時に確認した。  
→産卵床そのものは確認されなかったが、抽出した箇所の周辺で稚魚の遊泳を多数確認した。

メリット：屋内で確認する人員に特別な技量は不要。人の立ち入りが困難（水深・植生の繁茂など）な箇所でも簡易確認が可能。  
デメリット：産卵床そのものの発見は困難。撮影後に出水等があるとデータが使用できなくなる。水深2mを超えるとやや確認が困難。



#### ■ 飛行条件

- ・飛行高度：対地高度15~30m程度
- ・巡航速度：最大20km/h程度
- ・偏光レンズ使用

※特定飛行に当たるため申請が必須

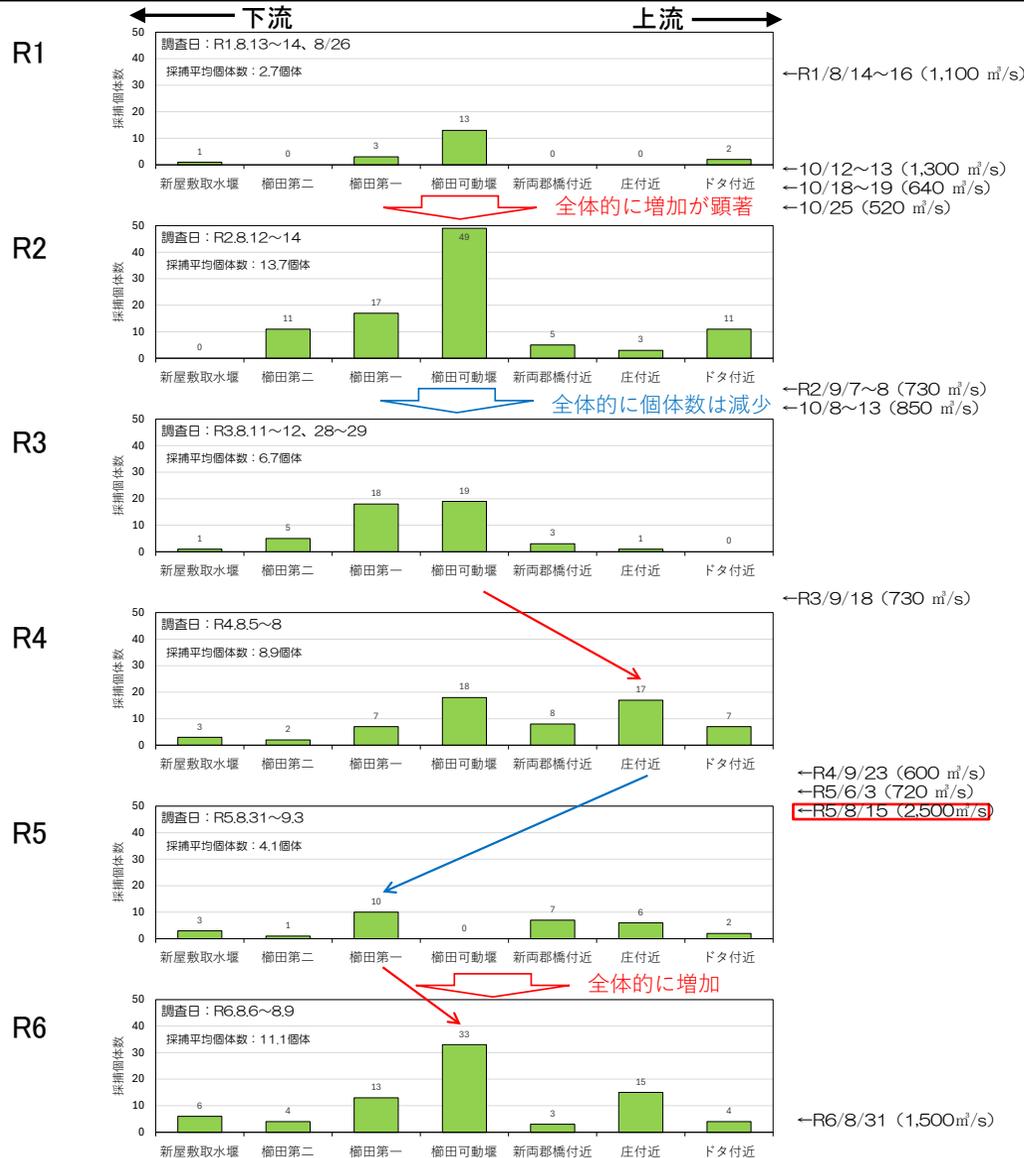
※道路等を横断しないような経路設定が必要



# 3. R6コクチバスに関する現地調査概要

## 3) 縦断分布状況

- ・R6のコクチバスの個体数は、R5と比較してやや上流に生息範囲を広げ、総個体数を増加させている。  
→調査前（春季～初夏）に出水がなく、産卵後の個体の分散がなかったため地点への定着率が高かったと思われる。



○H27~H29  
2000m<sup>3</sup>/s、1000m<sup>3</sup>/sの出水が発生したが、上流側に分布域を拡大し、個体数も増加

○H29~H30  
H29.10に3000m<sup>3</sup>/sの出水が発生し、生息分布は下流側に移動

○H30~R1  
2000m<sup>3</sup>/sの洪水が2回発生したが、分布域は再度上流側に分布域を拡大

○R2  
全地点で個体数が急増

○R3  
榎田可動堰下流では個体数が減少  
その他の地点では、個体数は大幅な変化なし

○R4  
全体的に個体数は増加し、特に榎田可動堰より上流にあたる3地点で増加が顕著

○R5  
8月に2500m<sup>3</sup>/s程度の出水が発生し、分布域は下流側に移動、個体数が減少。

○R6  
調査前には顕著な出水はなく、ほとんどの調査地点でR5と比較して個体数が増加していた。  
特に、榎田可動堰下流において顕著に個体数が増加した。

図-3-4 コクチバス採捕個体数の経年変化(自然再生モニタリング生息環境調査(夏季調査)結果による)

# 3. R6コクチバスに関する現地調査概要

## 5) 胃内容物の状況

- ・採捕された個体のうち、胃内容物の確認が可能なサイズの個体（26個体）について、胃内容物の状況を把握した。
- ・26個体のうち、19個体で魚類や底生動物の捕食が確認され、うち1個体はアユが確認された。また、コクチバスの稚魚や卵を捕食している個体も確認された。

- 体長：35cm程度のメス
- 採捕場所：榎田第二頭首工
- 採捕日：R6. 6. 1
- 胃内容物：アユ



- 体長：19cm程度のオス
- 採捕場所：榎田第一頭首工
- 採捕日：R6. 5. 21
- 胃内容物：ヨシノボリ類、コクチバス卵 等



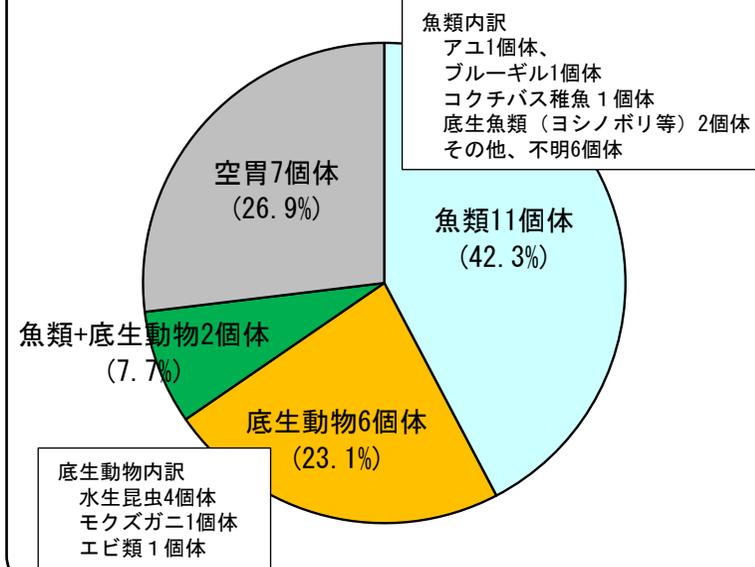
- 体長：43cm程度のオス
- 採捕場所：榎田可動堰
- 採捕日：R6. 5. 22
- 胃内容物：ブルーギル



- 体長：37cm程度のオス
- 採捕場所：榎田川可動堰
- 採捕日：R6. 6. 1
- 胃内容物：オイカワ  
モクズガニ



## ●コクチバス胃内容物の状況



# 4. 外来魚（コクチバス）対策に向けた取り組み

## 1) 岐阜県における取り組みの進捗状況

・岐阜県では、令和5年12月に「岐阜県コクチバス駆除総合対策」を策定し、県や漁協、市町村、河川管理者、ダム管理者など関係者が一丸となってコクチバス駆除に向けた取り組みを進めている。

## コクチバス駆除結果

R6.1～11月の間に、ショッカーボートによる駆除1486個体、その他手法による駆除147個体が報告されている。

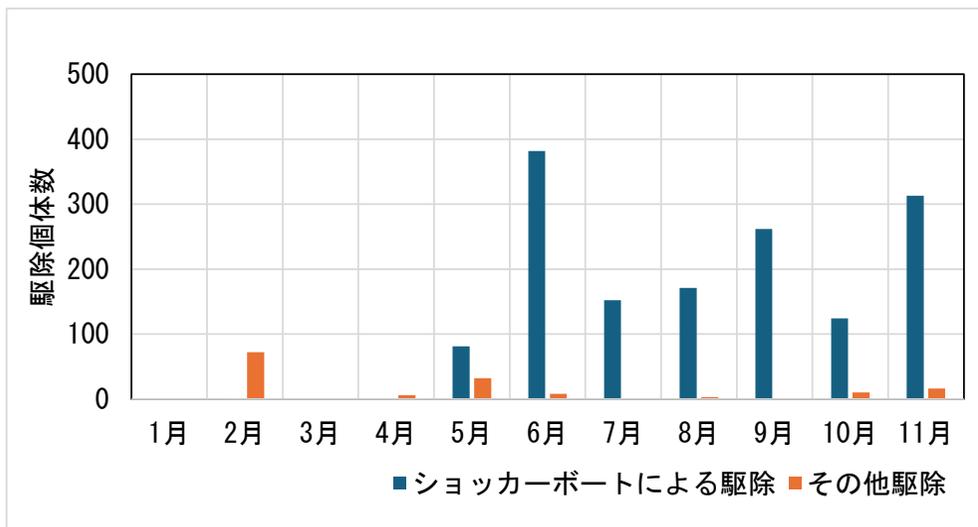


図-4-1 岐阜県におけるコクチバス駆除数  
(出典: 岐阜県里川振興課HP)  
※生まれた直後の稚魚は除く

## クラウドファンディングの実施

取り組みの進捗に向けて、ふるさと納税制度を活用したクラウドファンディングを実施(12/2～2/28まで、第二弾を実施中)

清流の国ぎふ  
ガバメントクラウドファンディング®に挑戦中!

清流長良川の鵜飼文化を未来へ  
コクチバスの駆除活動にご協力を!

ご支援の方法はこちら

関係者一丸となって頑張っています!

募集期間 2024年6/15(土)～9/12(木) 90日間

寄付金の使い道 選べるお礼の品

岐阜県では、ガバメントクラウドファンディング®用にお礼の品をご用意しています。  
※岐阜県民の方は、ご寄附のみのご協力になります。

世界農業遺産 清流長良川の恵みの逸品

世界農業遺産「清流長良川の鮎」推進協議会では、「長良川システム」を保全・活用・継承させていくために、清流長良川の恵みを受け育まれた自慢の品を「清流長良川の恵みの逸品」とする認定制度を実施しております。

お問合せ先  
岐阜県里川・水産振興課コクチバス対策室  
TEL) 058-272-8293  
MAIL) c11428@pref.gifu.lg.jp  
URL) https://www.pref.gifu.lg.jp/sashiki/11428/

※【第1弾】の概要  
○プロジェクト名: 清流長良川の鵜飼文化を未来へ コクチバスの駆除活動にご協力を!  
○実施期間: 令和6年6月15日(土)～9月12日(木)  
○寄附金額: 1,522,000円  
○寄附人数: 63人

## 4. 外来魚（コクチバス）対策に向けた取り組み

### 2) 再リリース禁止に向けた要望書に対する対応

- 三重県内水面魚場管理委員会に対し、コクチバスを含むサンフィッシュ科魚類の再放流禁止に向けた委員会指示を出してもらえよう、意見書を令和6年3月に提出した。
- 令和6年度第21期第22回三重県内水面漁場管理委員会（R6.4.23開催）において議題として取り上げられ、県に広く共有していくこととされた。議事録は、三重県内水面漁場管理委員会のHPに公開されている。

日時 令和6年4月23日(火) 午前10時00分から10時47分まで

場所 三重県内水面漁場管理委員会委員室

#### 議題

- 1 議案1 第五種共同漁業権に係る遊漁規則の一部改正について（大内山川漁業協同組合）
- 2 議案2 小委員会の設置及び構成委員の選出について
- 3 その他
  - (1) 櫛田川自然再生推進会議からの意見書について
  - (2) 今後の委員会等の開催予定について

（出典：三重県内水面漁場管理委員会議事録）

令和6年3月18日

三重県内水面漁場管理委員会 会長様

櫛田川自然再生推進会議  
地域連携専門部会 外来魚対策コア会議  
田中祐治

三重県内における外来魚（サンフィッシュ科オオクチバス属魚類）対策に対する  
意見書

櫛田川では、国土交通省により平成25年12月に「櫛田川自然再生計画書」が策定され、堰・頭首工魚道の週上機能の回復を図るための自然再生事業が進められており、これまでの整備によりアユ等の週上環境の改善効果が認められています。

一方、自然再生モニタリング調査において、平成27年に櫛田川で初めて特定外来種であるコクチバスが確認され、その後、年々増加しています。

櫛田川の自然再生を地域と連携していくために設立された「櫛田川自然再生推進会議」において、特定外来生物のコクチバスの増加が課題として挙げられたことから、下部組織として地域連携専門部会外来魚対策コア会議が立ち上げられ、コクチバスの産卵親魚や仔魚の試験的な除去等、地域と一体となったコクチバス対策の実施に向けた取り組みを進めているところです。しかしながら、コクチバスの増加に歯止めがかからない状態です。このままではアユ等の水産資源のみならず在来種の魚類や水生昆虫等の水生生物、ひいては櫛田川の豊かな生態系への重大な影響が懸念されます。また、国土交通省が実施している河川水辺の国勢調査によると、三重県内では近年、雲出川や木津川にもコクチバスの侵入・拡大が見られるとの報告もあり、他河川へのさらなる拡大も懸念されます。

三重県内におけるサンフィッシュ科魚類の拡大を予防するためには、「釣り上げた外来魚を生きたまま元の水域に放流することを禁止する」といった規制強化が有効な対策と考えます。

以上より、三重県内水面漁場管理委員会の指示等により、三重県内においてサンフィッシュ科魚類（コクチバス、オオクチバス、ブルーギル等）の再放流を禁止する等の措置を講じるよう、強く要望いたします。

<本意見書についての問い合わせ先>

櫛田川自然再生推進会議 地域連携専門部会 外来魚対策コア会議

事務局：三重河川国道事務所 流域治水課

連絡先：059-229-2216

# 4. 外来魚（コクチバス）対策に向けた取り組み

## 3) 外来魚対策コア会議の開催経緯

- ・ 櫛田川では、自然再生モニタリング調査においてH27にコクチバスが初めて確認され、その後拡大傾向が見られたことから、自然再生推進会議において地域と連携して取り組むべき優先的課題として挙げられた。このため、地域連携専門部会の中に外来魚対策コア会議をH29に設立した。
- ・ 外来魚対策コア会議では、コクチバスに関するモニタリング調査結果の報告や広報、他河川の取り組み事例の紹介等、地域と連携して取り組むための情報共有や意見交換を行ってきた。R5に再リリース禁止にむけた意見書を提出し、R6第21期第22回三重県内水面漁場管理委員会において情報共有が行われた。

年度	外来魚対策コア会議				主な取り組み
	回	開催日	議題	主な議事内容	
H29	第1回	H29.11.10	・外来魚対策コア会議について ・対策事例の紹介と櫛田川で考えられる対策について	・櫛田川におけるコクチバス捕獲試験結果の報告 ・外来魚駆除に向けた他河川事例の紹介	・櫛田可動堰上流湛水域のコクチバス生息状況調査(H29年12月)
H30	第2回	H30.12.19	・今後の調査、検討内容について ・冬期における生息場調査及び捕獲試験結果について	・H29年12月に実施した櫛田可動堰上流湛水域におけるコクチバス生息状況調査の結果報告	・魚類生息環境調査 ・コクチバス産卵環境調査
R1	第3回	R1.11.1	・現地調査結果報告 ・対策事例の紹介	・千曲川で対策を実施している方を招聘して、実際の対策事例を紹介	
R2	第4回	R2.10.12	・現地調査結果報告 コクチバス生息環境マップ ・外来魚対策の考え方 冬季捕獲試験の提案	・学識者からの助言を踏まえた冬期捕獲試験の提案	・学識者からの意見聴取の実施(三重大学 淀教授) ・漁協と連携した大型刺し網による冬季捕獲試験の実施(R2年12月;コイ1個体捕獲) ・コクチバス生息環境マップの公表(R3.3)
R3	第5回	R3.11.18	・現地調査結果報告 ・今後の取り組みについて	・土研による調査結果の紹介 ・三重県による「みえ生物多様性パートナーシップ協定」の内容紹介	
R4	第6回	R4.12.20	・現地調査結果報告 ・今後の取り組みについて	・土研による調査結果の紹介	
R5	第7回	R6.1.11	・現地調査結果報告 ・今後の取り組みについて	・先進事例として、岐阜県における取り組み状況について、岐阜県の担当者より紹介 ・内水面漁場管理委員会宛に、再リリース禁止に向けた意見書の提出(推進会議で承諾後、提出)。	・再リリース禁止に向けた意見書の提出
R6	第8回	R7.1.10	・現地調査結果報告 ・今後の取り組みについて		

# 4. 外来魚（コクチバス）対策に向けた取り組み

## 4) 今後の取り組み

- 三重県内水面漁場管理委員会への意見書を提出し、委員会でも共有が図られたことをもって、外来魚対策コア会議は閉会としたい。
- モニタリング調査は、自然再生事業のモニタリングの一環として、縦断的な分布状況の確認は引き続き行い、調査結果については技術専門部会で報告する。

## R7以降のモニタリング内容

調査名	調査内容	調査時期	調査地区
産卵環境調査	令和6年度で終了とする		
生息分布調査	コクチバス生息分布調査（採捕調査）	春季(5~6月) 夏季(8月)	(採捕調査) 新屋敷取水堰下流 橿田第二頭首工下流 橿田第一頭首工下流 橿田可動堰下流 新両郡橋付近 庄付近、ドタ付近(夏季のみ)
胃内容物調査	採捕されたコクチバスの胃内容物を確認	適宜	各調査箇所

